

IV-243

高齢者のベンチ利用に関する研究

システム科学研究所 正会員○北川博巳
都市交通計画研究所 正会員 土居 聡
近畿大学理工学部 正会員 三星昭宏

1. はじめに

近年、わが国においては福祉のまちづくりの概念から、高齢者・障害者に対してやさしいまちづくりがいわれており、段差の解消や歩きやすい歩道等、高齢者・障害者がより利用のしやすい歩道環境を向上させるような整備が推進されている。高齢者は加齢等が原因でモビリティが低下する傾向にある。高齢者のモビリティが増加するための施策として考えられる、ベンチ・手すり等の必要性は言われているものの、それらの必要性や設置規模については研究されておらず、使用の実態もあまり分かってはいない。そこで、本研究では、加齢等が原因でモビリティの低下する傾向にある高齢者の徒歩交通を補助する交通サービスの一つとして、ベンチの有効性について着目する。ここでは、高齢者を対象として、ベンチの必要性と設置間隔について考察することを目的とする。

2. 調査の概要

本研究では、高齢者のベンチに関する利用意識を把握し、ベンチ設置希望を調査することで、高齢者にとってよりサービスの高い歩道環境を考察することを目的とする。そのため、本研究では実際のベンチ利用の高齢者を対象として、ベンチ希望に対しては、アンケート調査を実施し、利用時間については観測調査を実施した。また、高齢者の歩行時間や距離といった徒歩行動を分析するため、追従調査を実施した。アンケート調査項目として、交通目的、外出時間帯、通常時の休憩場所、ベンチ利用の目的、設置間隔や設置希望場所といった、ベンチ設置に対する要望について調査した。対象地として、明石駅前ターミナルを選定し、アンケート調査としてベンチ利用の171名、追従調査として93人の高齢者に対して調査した（表-1）。なお、ここで対象とした高齢者は身体的な困難を持っている人は比較的少なく、全体として元気な高齢者が多い傾向となっている。また、昼間時間帯に調査し、周辺地域には買い物施設等が多いことから、女性利用者が多いため、若干偏ったサンプルとなっている。

3. 追従調査による高齢者の徒歩行動

ここでは、高齢者の徒歩行動について高齢者に対する追

キーワード 高齢者・身障者交通、歩行者交通

〒577-8502 東大阪市小若江3-4-1 Tel 06-721-2332,Fax06-730-1320

表-1 調査対象者の分類

	男性(人)	女性(人)	合計(人)
50～60歳	9	11	20
60～65歳	3	18	21
65～70歳	4	13	17
70～75歳	8	27	35
75～80歳	12	25	37
80歳以上	9	32	41
合計	45	126	171

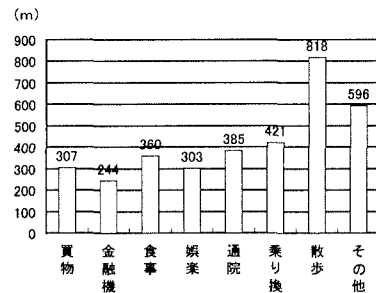


図-1 目的別平均歩行距離

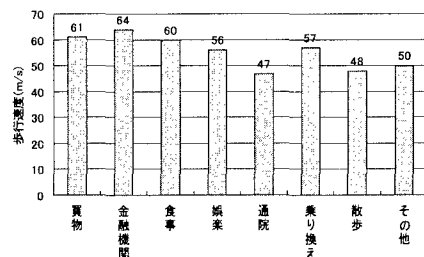


図-2 目的別平均歩行速度

従調査より、その特性を見ることとする。図-1 は対象地域を来訪した高齢者の平均的な歩行距離について交通目的別に計算した結果である。これより、散歩では 800m、その他の目的では、250～400m の歩行範囲となっている。また、その速度について示したものが図-2 であり、駅周辺に集中している買い物・金融・飲食関係に関する歩行速度は速く、通院や散歩に関する歩行速度は遅くなっていることが分かる。

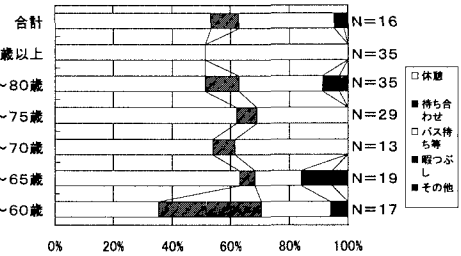


図-3 高齢者のベンチ利用目的

4. 高齢者のベンチ利用実態と設置希望

今回の意識調査の外出目的として、買い物・散歩・通院の順となっていた。まず、アンケート調査よりベンチの利用目的と利用時間について年齢を軸として集計したものが図-3、図-4 である。これらより、調査対象となった高齢者の半分程度が休憩目的でベンチ利用をしており、主として 20 分以下の利用状況にある。また、ベンチに対する要望として、設置場所や材質に関する要望が高く（図-5）、高齢者が希望する設置間隔として、200m 以内の間隔での設置希望が 6 割あった（図-6）。さらに、希望する場所として、加齢とともに坂道に設置して欲しいという要望の割合が増加している（図-7）。

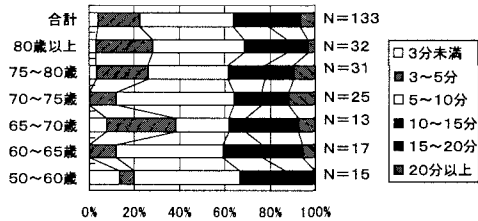


図-4 ベンチ利用時間

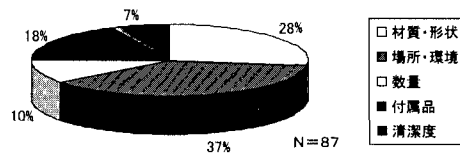


図-5 ベンチ設置に関する要望

5. まとめ

本研究は、今後高齢者の移動がより増加するための方策として、ベンチの設置に着目し、明石駅ターミナルを対象として、高齢歩行者の特徴を追従調査から整理し、意識調査を行った。その結果、高齢者のベンチ利用は 20 分以下の休憩行動がメインとなり、その設置希望に関しては、200 メートル以下の希望となった。また、その設置個所については検討を要するところがあり、高齢者にとっては坂道の移動はかなりの負担がかかるため、坂道付近での設置希望を得ることができた。今回のサンプルは元気な高齢者が対象となっており、属性別にさらにその必要性について考察してゆく必要がある。今後の課題として、福祉の街づくりの一環としてベンチの設置基準に関する検討を考察し、これらを始めとする休憩施設が高齢者・障害者のモビリティに及ぼす影響を考察してゆく必要がある。

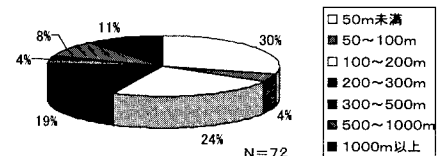


図-6 ベンチ設置希望間隔

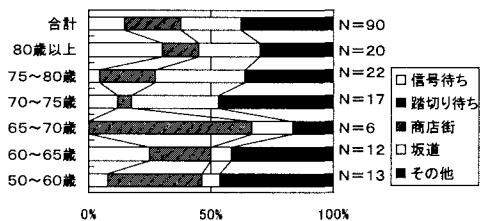


図-7 ベンチ設置希望場所

【参考文献】

- 岩上・中村・大蔵：ショッピングモールにおけるベンチ配置計画に関する基礎的研究，第 52 回土木学会全国大会講演概要集第 4 部，1997。
 土居・三星・田中：地方都市における交通困難者の交通実態と交通整備について，土木計画学研究・講演集 No.17，1995。
 北川・三星：駅ターミナルにおける高齢者の休憩行動に関する研究，土木学会関西支部年次学術講演概要集，1998。